

平成5年7月18日発行

鵠沼

久 久 比 奴 末

はまゆう と 櫻貝 と
海光る わが 故里

第 6 8 号

内容 鵠生園日記(続) 田中 まさ子

鵠沼を語る会

久久比奴末とは、「新編相模国風土記稿」(天保2年・1801)で、「くくいぬま」と読みます。これが鵠沼の地名の起りです。

鶴生園日記 (第65号に続く)

田 中 まさ子

7月1日

鶴生園では、早い「七夕祭り」をした。

短冊に願いを書いたが、長生きも楽ではない、疲れた。と書いたが、これは、本音である。海から吹く風はまだ冷たいが、海開きもあり、鶴沼の夏が始まる。縁日の風景をホールに飾りつけ、祭り囃子もあり、綿飴、射的、魚釣りなどあり、郷愁をさそう。みんなで幼かった故里を語りあつた。

「サザエさん」の生みの親・長谷川町子さん死去と新聞は発表した。惜しまれる人をまた失った。「サザエ」さん一家は庶民のどんな処へも入って明るいユーモアで長い年月楽しませてもらった。むずかしい言葉を使わないで、みんなを楽しませてくれた。本当に有難う。大きな功績を忘れてはならないと思う。

8月15日

さても暑い夏であることよ。地球はどうかしてしまったのか。暑さもつらいが、また八月の終戦記念日が巡ってきた。47年目の原爆の日、この日の後先に本当の「修羅」を見た。この世で、この眼で見たのだ。どうして忘れられるものか。三百十萬の戦死者の中に私の弟を初め親族の若者三人を亡くしている。切ない八月である。カンボチャの人達のあわれさ。戦争は二度としてはならない。

残暑というか猛暑というのか、私達老人にはとてもしのぎ難い夏で、園でもお休みの人が多い。私もお休みをしたので知らなかったが、園へ来て、横山さんが亡くなったのを聞いて、言葉が出なかった。まだ、若いのになあ。私がいつもしていたネックレス（安もの）を上げたら、横山さんは生まれて初めてと涙ぐんで下さった。ご冥福を祈る。

この頃、岩田さんはよくみんなと話す。本を持ってきて私に「読め」といわれる。英文の手紙なのだ。私は読めないと言う。「あんたなら、読めるよ」と開く。私は英語はぜんぜん駄目だと言う。岩田さんは読んでくれるが、私は「そんな難しいことは解らない」と落語の*「こん平」のように言う。この頃、岩田さんの身振り手振りで私には何を言っているのかすぐ解り、表情でも暗い事件をテレビで見ると、一体今の教育はどうなっているのだ教育の原点を、根源を置き忘れている。眼の前のことばかりで、一番大切なことが守られていないよ。本当だ。してはならないことは絶対してはならないのだ。今日は岩田さんと話せてよかった。

防災の日、この日はつくづく考えた。昔の戦前戦後の頃は、物が足りなかった時は

隣組の人達と暖かく分け合ったり、お互い不幸にも俸せごとにも楽しく協力し合った。今、物が有り余っても、全然他人の協力は望むべくもない。寂しいことだが、事実なのだ。敬老の日も間近くなって、今日、海岸の疋田昌子先生より「慈岳院医光雄居士」の七七忌の供養の品が届けられて、実に感無量の思いがした。何十年もの付き合いは、医者としてより親切的な友達となっていたのに。私は主治医を一度も変えたことはなかった。三浦先生、安先生、疋田先生とみんな私をおいて先立ってしまった。敬老の日というと「きんさん、ぎんさん」ではないが、「嬉しいような、悲しいような」気持ちはよく解る。新聞で見て百歳の人が多いのに驚いた。又、現役の女医さん「小出弥生さん」には頭が下がる。自分の道を守り通して百歳とは、いやな日やつらい日もあったろうに、高齢化社会のお手本のような方である。今、人はよく言う。「何事にも価値観のちがい」と。世間はそう甘くはない。信念を持った人、百歳までも、本当に偉い。せめて少しでも近づきたい。

9月10日

ロシアの大統領が訪日を直前に延期とは変なことだ。不景気になったのは、私達年寄りにも見えるが、十兆七千億円の経済対策とはまあこれも大変なことだね。私達には金銭感覚マヒで、こんなお金は夢にも出てこない。世間しらずなのだ。今日は敬老の日、家族揃って祝ってくれ、新しい眼鏡を買ってもらった。年寄りでも、新しい眼で見なければと嬉しい贈り物だった。

もつとも九月は何も出来ずに寝ていた。残暑というのか、猛暑というのか、どっちにしても苦しい夏を過ごして、中秋の名月も台風のため見られず、園に行ってもみな元気がない。この頃岩田さんとよく話ができる。今日はこんな話をした。「今の教育は、大切な教育の原点を置き忘れているのではないか、目の前のことばかりで、何があるろうとしてはならないことは絶対にしてはならない。」と私が言うのに岩田さんは身振り手振り表情で答えてくれる。嬉しい。一生懸命に話される。

9月17日

PKO海外派遣第一陣出発する。毛利さんスペースシャトルに参加、宇宙から地球を見て、「地球は青かった。国境はない」などの感動がよく伝わる。これが宇宙を翔ぶ現実であり、我々には大きな夢のようだ。日本とロシアの相互信頼が難しいことになりそうだ。ロシアの苦しみに思いやるが、領土を返すことと、経済援助は別のように思われる。苦しい時はお互いに思いやりがあつてほしい。

10月1日

やっと秋らしくなったなあと空を見上げる。今年は珍しく一ヵ月余り雨がふらないので庭の樹も枯れた。また、種を蒔いて花を咲かせよう。花を楽しむ平和な世をゆっ

くりと味わうことが出来る。それにしても世間はうるさい。折角平和になったのに。花や木のように人間も自然を素直に受け入れることが大切と思う。孤独は皆同じだ。スウェーデンの福祉を聞くが、別にうらやましいことに思えない。若い人達に、ゼイキンの心配をさせたくないというのが老人の気持ちである。

10月某日

近頃よく中国のことを見聞することが多い。陛下も訪中されることになった。中国といえば私には美しい思い出も悲しい思い出もある。私は信州の松本生まれ、川島芳子さん（川島家は松本の浅間にあった。）とは姉と一緒に安曇野にある温泉旅館の私の家で出会った。川島夫妻（芳子さんの養父母）も泊まっていた、芳子さんとは湯に入ったり話したりした。私と姉はこの時、おおらかな中国美人にぼおーっとなつて仕舞った。中国の詩によく出る桃花そのものであった。白い肌、ふくよかな桃の花が今開いたような美しさだった。

川島芳子さんは清王朝の王女さまなのだ。私と姉はいつもその思い出を語り合った。私達姉妹の一番美しい思い出だったが、芳子さんの身边にはいつもいろいろな話題や事件があり、少女時代だけがせめてものたのしかった時ではないかと思う。戦争が始まり、美しい夢は次々と崩れ、日本で過ごした日々は決して幸せではなかったという。何も知らない王女を川島家でもらいそだてた。なまじ川島家に来てつらい運命を背ったかわいそうな芳子さん。清朝の王女でいられたのに。日本は敗戦、戦争というものは無残なものだ。美しいものは亡び、山河も残らない。もう決して戦争はしてはならない。終戦となりほっとした。ある日、川島芳子の記事と写真を見た。中国の獄舎で粗末な獄衣を着て、素足で横たわって死んでいた。私は「ウッ」と声を吞んだ。言葉にも涙にもすぐ伝わらない。重い悲しみでつらかった。むごいことだ。

10月となると、やっと秋になった。一ヵ月も雨らしい雨もなく、庭の樹々も花も、これから一息つくと思う。しかし、世上はうるさいことばかり。折角平和になってやれやれと思っているのに、金丸前副総裁の件はどうなるのだろう。私達は何も抗議はできないが、仕方がないとは思えない。

さて、10月24日と25日に、会員の方々の大変な努力で鶴沼公民館祭りに「芥川龍之介ゆかり展」が開かれ、大勢の人々に生前の龍之介を知ってもらった。地域の結びとなる鶴沼のよき日であった。

両陛下も中国より無事帰国された。

11月、園でもささやかな文化祭をした。私達のために、職員さんボランティアさんがよいお祭りに仕上げて下さった。

いつしか、日ぐらしの音も止み、虫しぐれを聞く秋も深まった。年々歳々花の色は

変わらねどつらい別れもあって、今年も暮れようとする。一年って早いものだ。この園でおたがい孤独を分け合い楽しい日々を過ごせた。くる年もまたみんな寄り合い、楽しい日を持ちたいと願って平成四年をおわる。

鵠生園日記終わり。

編集者注。「こん平」のこと

平成5年現在、ここ数年、毎日曜日の午後5時半頃、落語の「笑点」が放映されており、この後半の部に「こん平」が常連として出演している。その際、いつも口癖のように、「わたし難しいことは全然わからないんだけど・・・」と言って観客を笑わしている。このことを、田中さんは引用しているのです。

「 鵠沼を語る会」 会員名簿」

平成 5 年 4 月現在

No.	役員	氏 名	住 所	電 話
1	○	有田 裕一 子	鵠沼海岸 2-1-20	36-7298
2		浅宮 ひとみ 子	辻堂太平台 1-12-6	36-2029, H5.4月
3		荒木 良正	鵠沼神明 3-4-37、満福寺	22-6351, H5.6月
4		石田 鈴雄	鵠沼桜が岡 3-9-13	22-1518
5		稲葉 元成	鵠沼海岸 6-8-18	36-3020
6	○	遠藤 隆二	鵠沼松が岡 3-12-3	26-7233
7		遠藤 絹	"	"
8		榎本 一男	鵠沼海岸 2-7-3	36-7208
9		大橋 円明	鵠沼神明 3-3-21、空乗寺	22-9080
10	○	川上 恵久	鵠沼桜が岡 3-11-21	23-4699
11		川島 弘一	本鵠沼 5-5-12、普門寺	22-9679
12		川島 禎子	鵠沼藤が谷 2-2-6	23-5022
13	○	川島 孝子	"	"
14		葛巻 左登子	鵠沼海岸 3-11-5	
15		後藤 俊子	鵠沼藤が谷 2-2-4	26-1792
16		佐藤 和子	" 3-5-5	28-5008
17	○	高木 和男	鵠沼海岸 1-15-1	36-4714
18		鈴木 武夫	鵠沼藤が谷 4-5-14	23-5714
19		関根 次郎	鵠沼海岸 5-9-35	36-7263
20		田中 まさ子	鵠沼松が岡 3-3-9	22-5667
21		竹縄 芳隆	" 4-10-26	22-4992
22		常深 次郎	鵠沼海岸 3-1-12、鵠沼郵便局	36-4921
23	◎	寺田 良夫	鵠沼橋 1-14-5	22-2718
24		永井 久子	鵠沼海岸 3-6-22	33-1734
25		西 忠保	" 3-3-23	36-6237
26	○	野口 ゆえ子	" 3-9-27	36-3697
27		長谷川 一夫	鵠沼桜が岡 1-3-8	22-5094
28		橋本 ゆり子	鵠沼藤が谷 1-7-10	22-6697
29	○	榛葉 昭市	本鵠沼 2-19-10	36-6651
30		榛葉 敏行	鵠沼海岸 2-5-2	36-7505
31		松永 好恵	" 2-7-21	36-7416, H5.5月
32	○	三上 重孝	" 1-5-4	36-7572
33		与安 功一	本鵠沼 3-15-6	36-6782
34	○	吉田 興一	辻堂 6736	36-6818
協力会員		市川 勝典	鵠沼海岸 1-14-18 シーフラワーハイツ, 2F	33-7175
事務局		金子 健治 館長 川邊 静雄 主査 飯島 美春 主査 浜田 知子 誠章 永田 誠章 名古 屋 峰 陽子	鵠沼海岸 2-10-34	33-2001 H5.4月

9 3 年の「公民館祭り」の分担第一案について

1. 写真 の選択と引伸。

リーダー 高木さん。

写真の内容・・農作業、農家の庭先、農作業、行商、地引き網、風景、風俗
どんど焼、鯉のぼりなどの季節の行事、祭礼、正月風景、婚礼
引地河の堰止め、その他昭和初期とか戦中戦後の記録写真など

担当 川上さん、稲葉さん

2. 地図

リーダー 榛葉さん

内容・・かつての農道と現在の道路との比較、堀川田圃などの田圃と用水路、
地引き網などの漁業のための浜道、納ん屋の位置、各網元の所在、講中
のある場所などを地図の上におとす。

担当 鈴木さん、西さん

3. 図表

リーダー 吉田

内容・・一月から十二月までの農作業、農家の年中行事、暦の上の初午、七夕、
盆などの季節による年中行事および二十四節気などを組み合わせて図
表をつくる。

担当 与安さん、石田さん

4. 年表

リーダー 有田さん

鶴沼の記録を年表にまとめる。

担当 永井さん、川島さん

5. イラスト

リーダー 佐藤さん

内容・・鶴沼村の人々のくらし、血縁、地縁、信仰、五人組、講中などの村人の
構成・しきたりや、屋号などを判り易く表示する。

担当 野口さん、橋本さん

以上は会員の方々の参加していただく試案ですから、次回の会合にてご希望をお述べ下さい

メモらん

「鵠沼」第68号
平成5年7月18日発行

鵠生園日記

田中 まさ子

ご注意：本紙（機関紙）の文
章を引用される方は、必ず
出典を明記して下さい。

編集・発行 鵠沼を語る会

鵠 沼 公 民 館
電話 33-2001
藤沢市鵠沼海岸 2-10-34